

1 キャリア教育を進めるに当たって

ポイント

- ① 組織的・計画的に
- ② 系統的・発展的に
- ③ 個に応じて
- ④ 連携・協力して
- ⑤ 実践的・体験的な学習を通して

手順及び留意点

① 組織的・計画的に進めましょう。

留意点

キャリア教育は、必ずしも新しい教育内容を導入しようとするものではありません。また、キャリア発達には、児童生徒が行うすべての学習活動等が影響するため、学校のすべての教育活動を通して行われなければなりません。

そのためには、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の取り組みが有機的に関連付けられているかなどを十分に検討した上で、キャリア教育を教育課程に位置付け、関連する諸活動を体系化し、学校教育活動全体を通して進められるように組織的・計画的に取り組むことが大切です。

② 系統的・発展的に進めましょう。

留意点

キャリア教育を推進する上で重要なことは、社会的・職業的自立が、児童生徒の発達段階と深くかかわりながら、順次段階を追って発達していくことを踏まえて、児童生徒の全人的な成長・発達を支援する視点に立つて行うことです。

また、キャリア教育は、子どもたちがそれぞれの発達段階に応じて、自己と働くこととを適切に関係付け、各発達段階における発達課題を達成できるよう取り組みを展開するところに特徴があります。

保育所・幼稚園、小学校・中学校・高等学校等は、情報を共有するなどして、相互に十分な連携を図り、子どもたち一人一人の発達課題に対する指導・援助を系統的、発展的に行うことが大切です。

そのためには、小・中・高等学校等を通じて子どもたちがどのような学習を行ってきたのかを、小学校から中学校へ、中学校から高等学校等へと、確実に伝えることが必要です。

例えば、高等学校は中学校からキャリア教育の年間指導計画の提供を受けたり、小学校や中学校では、子どもたちの学習内容を記録して蓄積することのできるポートフォリオ（注1）（例：「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック」（※3））などを活用し、子どもたちがどのような学習を行ってきたのかを学校間で情報を共有することが大切です。

資料

※3 P.35～38 No.3 夢のスケッチブック例

③ 個に応じて進めましょう。

留意点

教員は、子どもたち一人一人の理解に努め、人間関係を築く中でキャリア発達の個人差を認識し、個々の子どもに応じた指導に当たることが重要です。

キャリア教育は、一人一人の子どもの社会人・職業人としての自己実現を助ける取組みであり、子どもたちの成長の過程を見つめながら、一人一人のキャリア発達の状況を的確に把握し、個に応じて進めることが大切です。

④ 連携・協力して進めましょう。

留意点

家庭、地域社会、企業、関係機関等の理解を得、その資源を有効に活用して進めましょう。

⑤ 実践的・体験的な学習を通して進めましょう。

留意点

働くこととの接点を広げる職場体験やインターンシップなどの実践的・体験的な学習活動を多面的に展開することは、子どもたちに望ましい勤労観、職業観などの育成、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等、様々な教育効果が期待されます。

また、これらの活動が一過性の行事等とならないようにするために、事前・事後の指導の充実が必要です。

（注1）ポートフォリオ：児童生徒の学習成果を継続的に蓄積したもの。